

コながるスイーツ干!!

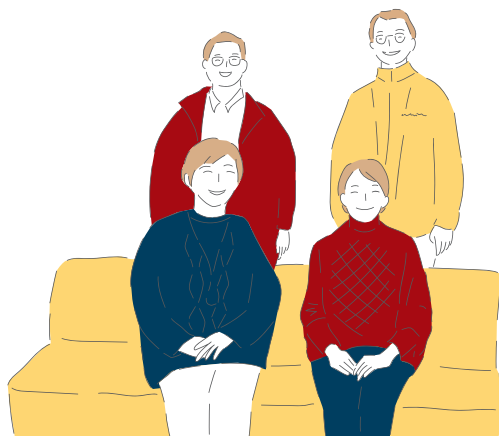
久留米市社会福祉協議会

vol.5

支え合い推進会議

—その③—

「金島校区」の取り組み



支え合い推進会議の様子を紹介していくシリーズ第3弾。今回は、「金島校区」をご紹介します。

・金島校区支え合い推進会議
会長 井上正明さん

・金島校区社会福祉協議会
会長 井上二也さん

・金島助っ人隊コーディネーター 馬場和子さん

・金島校区まちづくり振興会
事務局 長 吉塚江美さん

4名のメンバーにお話しをお聞きしました。

●金島校区支え合い推進会議は
どんな方たちが参加しているの？

金島校区の高齢者率は約40%。少子高齢化の進行や、核家族化や単身世帯、共働き世帯の増加、そして地域のつながりの希薄化：多くの課題を抱えています。「孤立している人や困りごとを抱えている人がたくさんいるかもしれない、これからの地域のあり方について考えていかないとけない、何かしなければと感じていました」と井上正明会長。久留米市からの提案もあり、金島校区の現状と課題を把握し、解決していくために平成28年9月、「支え合い推進会議」を立ち上げました。金島校区支え合い推進会議の主な構成団体は、

まちづくり振興会・校区社会福祉協議会・

校区青少年健全育成校区民会議・地区民生委員児童委員協議会・ふれあいの会

(見守り活動)・自治会長・老人クラブ・校区防犯協会・子育てサロン・校区人権啓発推進協議会・金島小学校PTA・

神代病院地域活動推進室など。医療機関のメンバーが支え合い推進会議に入っているのは金島校区の特徴。金島

校区には高齢者施設が多いため、会議では専門的なご意見をいただくことができます。

●実際にどんな取り組みをしているの？

(1) ニーズ調査

2か月に1回のペースで、支え合い推進会議を開催。校区の困りごとだけを考えるのではなく校区の魅力を再確認するために金島校区の「宝もの探し(自慢できること)」についても意見交換しました。金島校区の自慢は…自然豊か、農産物が豊富・人が温かい・元気な高齢者が多い・病院や高齢者施設が多い。そして、課題や困りごとの調査方法なども会議でしっかり話し合った上、金島校区の皆さんが今、何に困っているのかを具体的に把握するためにアンケート(ニーズ調査)を全世帯を対象に行いました。調査の結果は、ゴミ出し、病院への送迎、庭木の剪定・草取り、食事づくり、電球の取替え、買い物など30個以上の困りごとがわかりました。アンケート調査では、困りごとだけでなく、困ったときに相談する人がいるか、誰にお願いしているかなど金島校区住民の現状を細かく

情報収集。

(2) 担い手調査

次に、校区住民の助け合いの意識や、できる活動について把握するため金島校区全世帯を対象に、支え合いアンケート(担い手調査)を実施。「困った時に近所で助け合うことに関心がある」と回答された方が、78%もいらっしゃいました。どのような内容であればボランティア活動したい(できる)か、他の人のために活動していることはあるか、災害時はどのようにしているか、など、細かく回答項目を設け、現状の把握を行いました。困りごとだけでなく、金島校区の魅力についても回答をしてもらいました。「ボランティア活動に協力したい」と回答いただいた中に、60代、80代の方が多くいらっしゃいました。改めて、金島校区には元気な高齢者が多いんだと実感し、嬉しかったです」と井上正明会長は話します。



「金島助っ人隊」発足

まずは少しずつ取り組んでいこう！
ということでニーズ調査で要望が多かったことや担い手さんができることを踏まえ「ゴミ出し」と「電球の取替え」の2つのニーズに絞って対応することに決めました。そして、この金島校区の支え合いの取り組みを「金島助っ人隊」と名付けました。チラシを作り、利用者と担い手を募集。令和3年10月、「金島助っ人隊ボランティア説明会」も行い現在、数名のボランティアさんに登録いただいています。



活動して感じたこと、今後のこと

● 井上正明会長

今、困りごとを気軽に頼んだり相談できる関係が希薄になってきています。この活動をチケット制にして料金

が発生することで、皆、割り切って、頼みやすくなるのではないかと考えています。また、調査で元気な高齢者が多いこともわかりました。高齢者が担い手となって活躍する元気な金島校区にもなりそうです。会議では「こんなことにも取り組みたい！」という前向きな意見もたくさん出ます。まずは「ゴミ出し」と「電球の取替え」の2つの困りごとからスタートしますが、今後はその他の困りごとにも広げていき、この活動が多くの方に利用してもらえようになっ

て欲しいです。

● 井上一也さん

支え合い推進会議の取り組みを通して、様々な人と意見交換ができています。そして市や社協などと情報交換ができることはとても有意義で、会議を立ち上げて良かったと感じています。昔から言われている「向こう三軒両隣」。この活動を通して、隣近所同士が気軽に話せて助け合えるような、つながりの強い地域になっていって欲しいです。住みやすい金島校区を目指します。

● 馬場さん

この活動では、いかに地域のつながりを作るかが大事になってきます。元々は隣近所の付き合いが多かった地域ですが、その関係は年々減っています。子どもたちとのつながりも同様です。「金島助っ人隊」は高齢者の困りごとだけを対応するのではなく、核家族や、共働きの夫婦など、困っている全ての人を地域で支えられるようになりたいです。

● 吉塚さん

コロナ禍と重なり、会議や活動が思うように進まなかったのですが、ようやく活動をスタートすることができて良かったです。多くの方にこの活動を知ってもらい、そして利用してもらい、校区の住民同士がつながるきっかけになればと思います。

取材を終えて

金島校区には「井上」という苗字の方が多く、会議のメンバー内にも6人の井上さんが。間違えないように、下の名前前で呼び合うそうです。会議で金島校区の魅力について話し合ったり、アンケートでも魅力についての聞き取りを行ったりして分かったのは、皆さん金島校区が大好きで、とても誇りに思っていること。温かい人・人情溢れる人が多いとの声も多数。市社協が野菜のご提供をお願いした際、すぐトラックいっぱい野菜を積んで駆けつけてくれた方もいたそうです。元気な高齢者もたくさん。老若男女、金島校区全体で助け合い、支え合う活動がこれから始まります。



〔後列〕井上 一也さん 井上 正明さん
〔前列〕馬場 和子さん 吉塚 江美さん

井上正明会長はカメラが趣味で、九州内あちこち周り、風景写真を撮影しています。「まちづくり振興会議事務局内に写真ギャラリーを作ってます(笑)。ご興味のある方は気軽に見に来てください」と井上正明会長。井上一也さんの趣味もカメラ。人物を撮影するのがお好きとのことで、高齢者のサロン活動や学校の運動会、校区のお祭りなど撮影されています。馬場さんは元事務局長。「孫守りをするから」と、一度辞められたのですが、金島校区のためにカムバックされました！吉塚さんはご結婚を機に、今年の3月、金島校区を離れます。「金島校区は人が優しくて温かく、本当に住みやすいんです！」と熱く語られていました。

久留米市社会福祉協議会

〒830-0027 久留米市長門石1-1-34

TEL: 0942-34-3035

FAX: 0942-34-3090

メール: heartful@heartful-volunteer.net

HP: <http://www.heartful-volunteer.net>

久留米市社会福祉協議会

検索

webサイト

【note—つくる、つながる、とどける。】で

「つながるスイッチ!!」を検索してください!

つながるスイッチ!!はHPでもwebマガジンでも掲載中

vol.6も引き続き

「支え合い推進会議」

各校区の取り組み—その④—

を紹介しします。

次回の

つな

ぎ

を

紹

介

し

ま

す。

「

支

え

合

い

推

進

会

議

」

各

校

区

の

取

り

組

み

—

そ

の

④

—

」

を

紹

介

し

ま

す。